



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

芦名, 定道

CITATION:

芦名, 定道. あとがき. ティリッヒ研究 2001, 2: [1]

ISSUE DATE:

2001-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/57585>

RIGHT:

あ と が き

『ティリッヒ研究』の第2号をお届けいたします。「ティリッヒ研究会」（「現代キリスト教思想研究会」内の研究会）の具体的な活動に関しては、先に掲げた通りですが、今年度も、月一回のペースで研究会を積み重ねてきました。こうした活動を振り返りつつ、今後の会の方向を展望することによって、この論文集のあとがきとしたいと思います。

研究会は、メンバーの個人研究発表と共通テキストの輪読を中心に進められてきました。そのうち、個人の研究成果については、研究発表後の質疑応答を経て書き直された論文が、本論文集に収録されておりますので、ご覧ください。今回、間に合わなかった論文は、9月発行予定の第3号に掲載されることになっております。今後、『ティリッヒ研究』は電子ジャーナルという性格を強めつつ、息の長いものにしてゆきたいと考えております。紙にプリントアウトし製本した雑誌も、最小限の部数は引き続き発行しますが、電子化による経費などの抑制によって 論文集の電子化だけでなく、会の活動全体をホームページ上で公表してゆくことが計画されています、年二回程度の発行を実現する予定です。もちろん、論文掲載に値するレベルの研究発表を継続して行うことが前提条件ですが、研究発表を論文化することによって、個々のメンバーの研究レベルが向上することを期待しております。研究会の参加者は研究に関しては途上にある者ばかりですが、本論文集に掲載された論文は、それぞれの研究の現時点における到達点でありますので、暖かいご批判とご助言をいただければ幸いです。

もう一つの研究会活動の柱である輪読についても、新しいティリッヒ著作集の編者解説の輪読が終わり、現在は、翻訳出版を前提に、Ronald H. Stone (ed), Paul Tillich, *Theology of Peace*, Westminster / John Knox Press 1990を読み進めています。2001年度中の出版を目指して、目下、精力的に輪読を行っているところです。

個々のメンバーも、また会全体も、多くの課題を抱えておりますが、今後とも皆様のご支援を賜り、研究者、研究集団として成長して行ければと考えております。

研究会代表
芦名 定道